

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500285
法人名	日本医療サービス株式会社
事業所名	グループホーム大川 (ユニット名 グループホーム3階)
所在地	福岡県大川市大字榎津160番地1
自己評価作成日	平成31年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16 第2高田ビル2F
訪問調査日	平成31年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員とご利用者が『共に過ごす』という視点を大切にしています。
 ご利用者は、お互いに協力しながら何事も行い、馴染みの関係が構築されています。
 外出する機会を増やし、夏祭りや敬老会といったイベントに加え、例年のクリスマス会等地域との交流を深めていくよう力を入れて取り組んでいきます。
 今後も私たちの理念である『和』の想いに添ったホームづくりを実現できるよう、みんなで取り組んでいきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は6階建ての建物の3・4階にあり、階下には法人グループの系列事業所や事務所がある。病院を母体とする法人で、救急から在宅医療まで対応しており、医療面での連携が取りやすい事業所である。又、法人内には地域の在宅サービスも充実している。食事は管理栄養士による指導のもと、利用者の好みにも配慮しつつ法人内の厨房で調理され、暖かい状態で利用者に提供できている。事業所には介護福祉士の資格を持つ20歳代から50歳代の職員が多数勤務しており、事業所理念である「和」を念頭に、日々利用者に関わっている。2つのユニット共に新しい管理者が一生懸命に取り組んでいる。保育園児・幼稚園児の訪問があり、地域での夏祭り、木工祭りに職員は利用者と共に参加している。また、地域での介護教室には職員が講師として出向き、地域の清掃活動に参加することもある。地域に根差した事業所となるよう、努力を続けている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアができるように、常に職員間で話し合い共有している。 また、申し送りや日報報告の際に、管理者とケアの方向性を確認し合っている。	設立時からの事業理念は廊下や食堂兼居間の見やすい位置に掲示している。職員は笑顔で接したり、丁寧な言葉遣いを心掛けるようにしている。2ヶ月に一度開催する職員ミーティングで、理念に基づいたケアができているか振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出掛けている。また、地域の行事に参加したり、行事に招待している。	利用者・職員は地域の夏祭りや木工祭りに参加しており、事業所の行事には地域ボランティアの参加がある。また、近隣の保育園・幼稚園児の訪問や、看護福祉専門学校の介護実習を受け入れている。地域での住民参加の介護教室に担当職員が講師で出向き、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年介護教室を実施している。 運営推進会議を通して、町内会長から介護教室の依頼も増えてきており、地域の方々との交流も深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、近況報告や意見交換を行っている。 防災訓練では、消防署も交えて活発な意見交換ができ、今後につなげている。	民生委員・市職員・家族や老人会会長等の参加がある。事業所より活動報告や研修参加状況、職員異動等を報告したり、参加家族から介護認定結果についての質問や、職員の大幅な異動に対し心配する意見が出たりしている。認定結果は市職員より、異動に関しては職員から説明しており、双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、市町村と連絡・相談をし、協力関係が気付けるように取り組んでいる。電話での問い合わせやメールでの情報交換を行っている。介護教室開催も定着している。	市から研修案内があり職員が参加している。介護認定更新時の訪問調査に管理者が同席したり、地域の介護教室開催について市の担当課に報告をしたり、事業所での敬老会に市職員の参加をしてもらったりしており、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、高齢者虐待・身体拘束廃止の勉強会を実施し、その理解に努めている。 やむ負えない場合になった時の報告・連絡・相談について徹底している。	法人内で開催するフォローアップ委員会に担当職員が参加し、身体拘束について学んでいる。他職員には留意点等を資料にて伝達をしている。現在、夜間のみ家族了解のもと、拘束状態にある。訪問調査時の職員の言動から、身体拘束の対象となる具体的な行為内容についての理解が十分とはいえない場面を見つけた。	職員体制等が変わって間もない現状については理解できるところである。利用者と職員双方にとって負担軽減を図る目的のためにも、身体拘束の対象となる具体的な行為の内容についてすべての職員が学習をする機会を持つことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待・身体拘束廃止の勉強会を実施し、その理解に努めている。 双方の身を守る意味でも、防犯カメラを設置し、その防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での学びを活用し、理解を深めるように努めている。 必要に応じて利用できるよう、関係機関と連携を整えている。	年2回程、法人内で制度に関する研修があり、担当職員が参加し、他職員には書類にて伝達研修を行っている。2ユニットを通じて成年後見制度に関する資料が1部のみ玄関先に置かれている。職員は、利用者・家族から制度について尋ねられたことはなく、制度に関する理解が十分とはいえない。	必要な時に情報が提供できるように、全職員が制度に関して理解を深めると共に、資料を準備するなど支援体制づくりが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や改定があった際には、入居者及び家族に説明を行ったのち、理解をいただいた上で、同意書にサインをいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を述べやすいようにご意見箱を設置しているが、実際の投書はみられず。定期的に介護相談員の来訪があり、意見やようほうを他へ表出できる機会を設けている。	管理者は相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。家族の参加が多い敬老会やクリスマス会の後に家族同士で話す機会を設け、管理者は運営推進会議出席への呼びかけもしている。職員は、家族訪問時の相談内容を職員間で検討しケアに反映させている。事例として、段ボールで作った足置きを準備したり、足浴時の足マッサージ導入等がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングにおいて意見交換を行っている。また、日常の中でも職員との関係を大切に話しをするように努めている。 必要に応じて職員と面談の時間をつくっている。	管理者には意見を言いやすい。利用者の個人的な買い物について家族対応ができない場合には、管理者に相談し、職員が代行している。職員休憩場所にあるソファも職員の意見が尊重され、処分されることなく現在も使用出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループ内の人材育成委員会による勉強会や、それに基づく自己評価により、人事考課を行っている。 就業環境の改善と向上に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女問わず、幅広い年齢層の職員を採用しており、職員間の関係も良好である。	職員の募集・採用に関して性別や年齢等を理由に排除されることはない。希望休は取り易く、それ以外の休みについても相談が可能である。職員の能力を活かし、地域で介護講師をしたり、利用者と一緒にカラオケを唄ったり、生き生きと勤務ができています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ケアの場面を通じ、利用者本位の視点のとらえ方を共に考えるようにしている。	年2回程、人権に関する研修に担当職員が参加し、他職員には書類で伝達研修を行っている。職員は入浴・排泄時などプライバシーに配慮し、職員自身がされて嫌なことは利用者にならないように心掛けている。管理者は不適切な対応を見つけた場合には、その都度職員にアドバイスしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成委員会主導の勉強会の開催や、外部研修の支援(補助)を行っている。資格取得に向けた取り組みも強化している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互に見学訪問するなど、同業者と交流する機会を設け、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの話し合いや、要望や不安に思っていることを1つずつ確認しながら安心して利用できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学の時の聞き取りや、利用に至るまでの話し合いの中で、事業所に求めることや困っていることを確認し、信頼していただけるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主観的にならないように、職員の意見も聞きながら、多様な視点で、必要な支援につながるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『共に過ごす』という視点を大切にしている。日常の中で家族のような関係を目指している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時の近況報告や情報交換の機会を大切にしている。生活は別にしているも、『共に過ごしている』という関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人間関係や社会とのかかわりを把握し、その関係を継続する支援に努めている。	近隣の知人・友人や民生委員の訪問があり、職員は改めて利用者との関係性を知る機会にもなっている。利用者が馴染みの美容室に家族と共に出掛ける際には、職員は外出準備を支援している。遠方に住む家族への電話を取り次ぐなど関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴・性格を把握したうえで、他者との交流を楽しめる環境を作ったり、共同生活が円滑に行えるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を重視し、いつでも相談に応じる体制であることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と日頃の会話や行動の把握を通じて得た情報や家族との情報交換などから、思いを読み取り、本人本位に検討している。	日々のケアの中で利用者とのコミュニケーションから思いや意向を把握したり、家族から聞き取り把握している。困難な場合は表情などからくみ取るように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居段階で得た情報に加え、日々の援助関係の中でもアセスメントが深まるように努めている。記録をすることで情報共有を図っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの共有及び介護計画に基づくモニタリングを活用している。また、日々の記録にも注意しながら情報共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向や職員からの情報を収集し、介護計画を作成している。日々の変化に合わせ職員間で話し合いを行っている。	モニタリングは全職員の参加で行い、介護計画作成は、利用者担当が普段の生活や記録、家族の意見、医療関係の意見から素案を作成し、最終手的には計画作成担当者が作成している。書類に記載不備が見られるが、家族のサインはある。急変後には、利用者の状態に沿った介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の記録はそこに記載するようにしている。また、日誌にも特記事項を記載することで見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応に努め、その時に必要な支援ができるよう、勤務体制の変更などを行っている。家族や来客者が宿泊できる設備もある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、外出支援などを行っている。全職員が地域資源をより把握することが今後の課題である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はそれまでのかかりつけ医で受診することも多いが、家族が受診に付き添うことが困難な場合は、訪問診療の説明を行っている。それらの内容は常にご本人やご家族とも共有している。	入居前のかかりつけ医を継続して受診することも可能であるが、協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診があり、24時間対応が可能である。皮膚科や歯科等の必要な他科受診は家族の支援を受けている。病院・事業所・家族との情報共有ができています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用での体制を整えており、夜間、緊急時の相談も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった日に医療機関のMSWIに情報を伝達している。また入院中も状況の報告をいただいている。常に報告・連絡・相談をすることで、信頼関係を構築している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を確認し、状態をみながら事業所としてできることを説明し同意をいただくようにしている。	看取りについて意向確認をし、同意書をもって医療的ケアが必要になれば病院へ搬送するが、これまで家族や本人の希望で2名の看取りをしている。看取りに関して職員研修をしている。家族の部屋もあり、希望があれば日中の付き添いや食事の提供も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的な勉強会にて対応方法の意識付けを図っている。 また、AEDの実技勉強会にも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日の防災点検や、年2回の防災訓練を行っている。その際に、地域の方の参加もいただいている。	年2回ともに消防署の協力を得て、当事業所・デイスービス等建物に入っている事業所全体で夜間想定避難訓練を実施し、指導を受けている。スプリンクラーと火災通報連動装置を設置している。備蓄品はあるが十分とは言い難い。火災・地震等のマニュアルはあるが、読み手に分かりにくいものもある。地域の協力が困難である。	有事に備え、職員がスムーズに対応ができるようマニュアルや、備蓄内容の見直しが見られる。避難対応等については人的支援の確保は必要なので、運営推進会議で呼びかけなどの工夫を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声かけや対応に配慮している。 周りに高い建物はないが、着替えの際にはカーテンをするなどプライバシーを守るように支援している。	利用者を尊重することを常に心がけ、呼称は「さん」づけで声掛けしている。排泄の失敗があった時は居室で交換をしたり、入浴時はできるだけ露出を避けるように努めている。記録類は事務所で書き、保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけには配慮している。 時にはジェスチャーを用いたり、イエス・ノーで答えられる質問を試みたりとその方に合ったコミュニケーションを心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、体調を優先し、本人の希望に沿って過ごせるよう、臨機応変に対応できるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや気候に合った服装が選べるように支援している。 また外出行事を増やすことで、お出かけ時にはおしゃれをする利用者も増えてきています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけ、台拭きお盆拭きなど、日によって変わりはするものの、一緒になって行うことを大事にし和やかな雰囲気作りを大切にしている。	昼食と夕食は階下の厨房で作られ、朝食のみ当事業所で作っている。お茶碗・湯呑・箸は各個人のもので、他の食器は陶器を使って彩りよく盛り付けられ、食事が楽しいものになっている。利用者が食べたいものは給食委員会で話し合い、献立に反映している。誕生会のケーキを利用者がデコレーションする等共に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の細かい方に対しては、嗜好物を準備したり、医師から栄養剤を処方してもらっている。個々に合わせた調理方法、盛り付けを工夫している。また、同じ建物の栄養課に相談しながら、バランスの良い食事を提供するよう心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをおこなっている。自分では困難な方に対しては、口腔内の清潔を保っていただくように支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が継続できるように支援している。できない場合は、何故できないのかを、職員間で話し合い、可能な限りトイレで排泄ができるように日々考えている。	排泄チェック表をもとに排泄リズムを把握し、失敗をなくすように支援をしている。病院の退院時オムツ利用者が、日中はリハビリパンツ、夜はリハパンとパットになり、トイレでの排泄に改善した事例がある。また、日中はトイレを利用しているが夜間のみ居室のポータブルトイレを活用して失敗や転倒を予防している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談しながら下剤の調整を行ったり、バランスの良い食事・睡眠・適度な運動を心がけている。日々工夫を重ねながら、下剤に頼らないように取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後から入浴できる体制である。出来る限りご利用者の生活パターンや体調等を考慮して支援している。午前中も入浴できる体制にしていくことが今後の課題である。	入浴は週に3回としており、拒まれる場合等は翌日に変えたりして、入りたい時にゆっくり、気持ちよく入れるように支援をしている。入浴を楽しめるように入浴剤を入れることもあり、肌の弱い方への配慮もしている。シャンプーなどは希望のもの持参で使用することもできる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態観察を行い、状況に応じて休息をすすめたり、清潔な寝具と気候に合わせた寝具調整を行っている。安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに内服薬の説明書をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションやカラオケ大会、おやつ作りなど、行事を通して気分転換や、行事ごとの役割など、メリハリのある生活ができるよう心掛けている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や行事に出掛けることもある。地域の協力体制に関しては、今後の課題である。	気候の良い日は散歩に出かけている。近隣の大学や桜鑑賞などは、車いすの利用者も一緒に出かけている。かつて家具づくりの仕事をしていた利用者もいて、大規模のイベントである木工まつりを楽しみに出かけることもあり、個別の外出支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら、個々の能力や希望に応じて管理方法を検討している。預り金の際は、金銭出納帳を利用し、定期的にご家族へ報告を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話したり、ご家族からの電話の取り次ぎを行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変えたり、日めくりカレンダーを設置している。空調が職員主体にならないように留意している。また、定期的な換気を実施している。	対面キッチンとなっている食堂とリビングがひと続きになっている。リビングの三面が窓で明るい造りとなっている。その広さと、カーテンを通したやわらかい光の差し込みによってゆったり感がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ、お好きな場所で気の合う方々同士で会話や歌を歌われたりと楽しまれている。また、一人で読書されたりと自分の時間を過ごされています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者・家族と相談しながら、個々に合った居室作りに配慮している。馴染の物の使用や、使い慣れた物の持ち込みを勧めているが、不安にならないように個別検討し対応している。	3階はフローリングの居室で、4階は畳とフローリングが半々の造りになっている。ベッド・箆筒・テーブル・椅子・洗面台は備え付けで、テレビ・家族の写真・仏壇・植木鉢等の持ち込みがある。他にも実習生の作品や、居室入口に家族が持ってきた飾りを取り付けたりしており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に把握に努めている。手すりや段差のないフロアなど、リスクを回避できるような環境F作りに努めている。		